

2019年3月期 第2四半期 決算ハイライト

(決算記者会見 配布)

2018年11月6日

株式会社 **クレスコ**

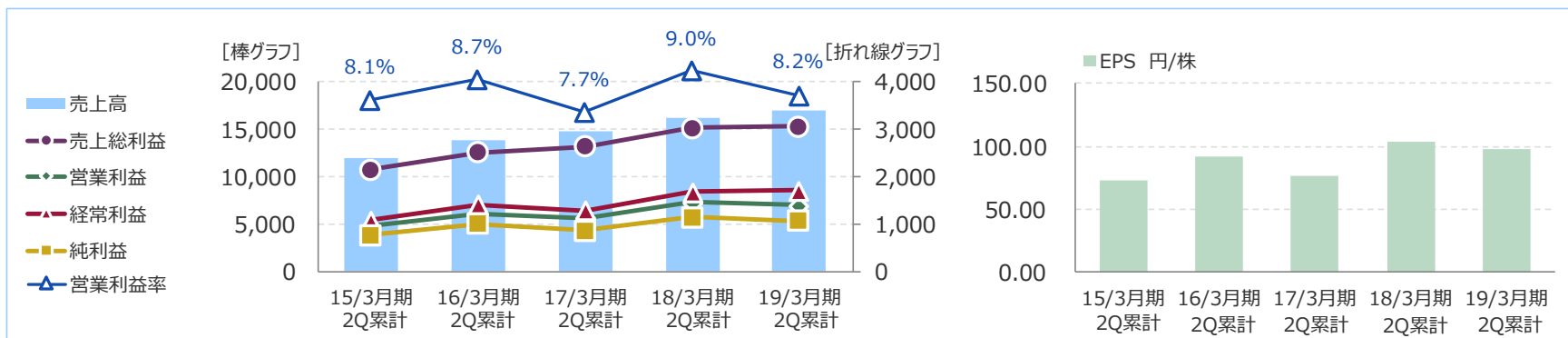
The background of the slide is a repeating blue geometric pattern on a white background. The pattern consists of interlocking, zig-zagging lines that form a complex, maze-like structure. This pattern covers the top and bottom portions of the slide, while the center is a plain white rectangular area.

① 決算のポイント

[単位：百万円未満切捨]

- 第2四半期の事業環境自体は大きく変化せず。
業種・業態で濃淡があるものの、企業の生産性改善や競争力強化目的の戦略的なIT投資の需要は継続。
- 売上高 … 顧客ポートフォリオおよび事業体制見直しや人員シフトの結果、増収。
利益 … 前年対比のマイナス幅は縮小するも、第1四半期の出遅れが響き、減益。
 - ・ 金融案件の剥落影響や第1四半期に発生した不採算プロジェクトの対応が、業績の重しに。また、開発人員不足の影響は依然、大きい。
 - ・ 経常利益の主な増益要因は、外国株の有価証券評価益と有価証券売却益。

2 Q 累 計		17/03期		18/03期		19/03期		前年 同期比	対上期 進捗率	19/03期 18/5/8 予想		前年 同期比
	売上高	14,740		16,253		17,041		104.8%	98.5%	17,300		106.4%
	売上総利益	2,631	(17.8%)	3,025	(18.6%)	3,067	(18.0%)	101.4%				
	営業利益	1,131	(7.7%)	1,469	(9.0%)	1,405	(8.2%)	95.6%	95.0%	1,480	(8.6%)	100.7%
	経常利益	1,284	(8.7%)	1,687	(10.4%)	1,720	(10.1%)	102.0%	106.2%	1,620	(9.4%)	96.0%
	純利益	867	(5.9%)	1,157	(7.1%)	1,076	(6.3%)	93.0%	98.2%	1,096	(6.3%)	94.7%
	EPS 円/株	76.64		103.44		98.39				100.18		



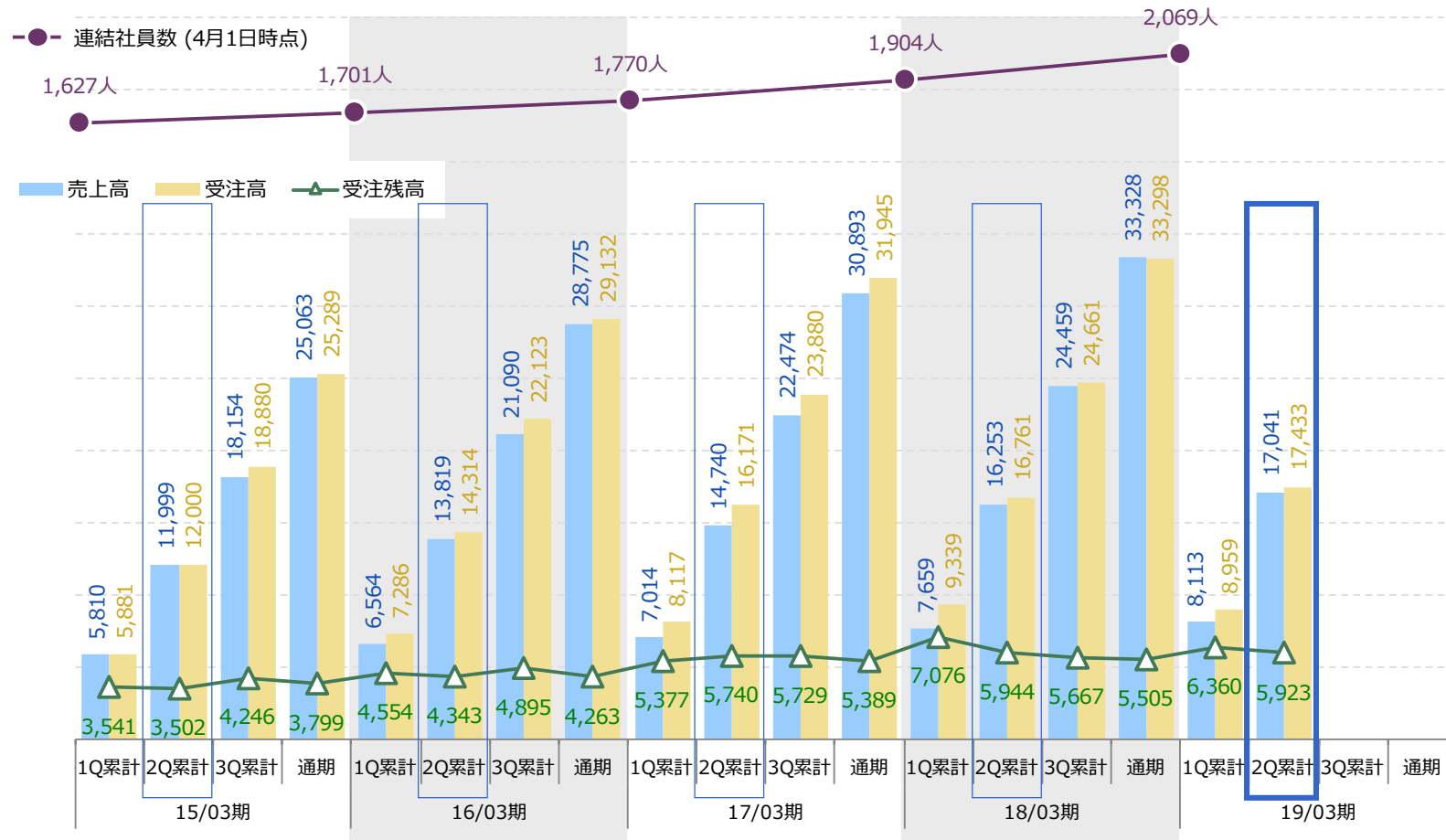
[注] () 内の数字は各々の利益率を表します。
[注] 「純利益」は「親会社株主に帰属する四半期純利益」です。

[単位：百万円未満切捨]

■ 顧客の引合いは、デジタル変革を背景に概ね順調。

- ・ソフトウェア開発 … 「金融」における想定以上の受注の減少が影響し、勢いにやや精彩さを欠く。
- ・組込み型ソフトウェア開発 … 「カーエレクトロニクス」「情報家電・その他」の引合いが、第1四半期に続き、増加。

■ 受注高 : 前年2Q累計比 104.0%
 受注残高 : 前年比 99.6%



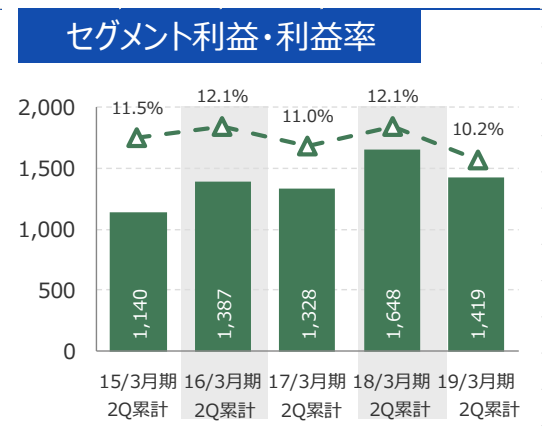
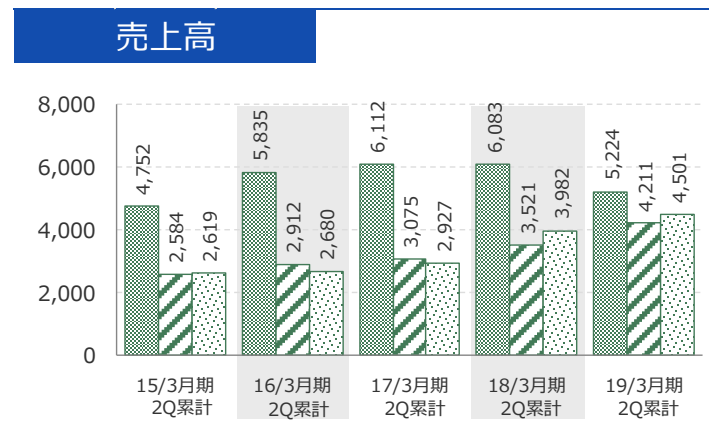
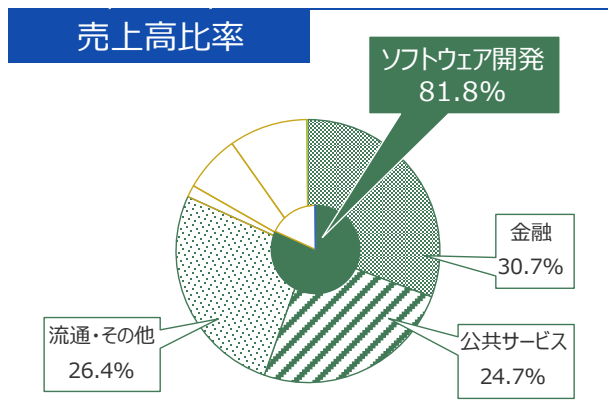
[単位：百万円未満切捨]

■ ソフトウェア開発

- 第1四半期に発生した不採算案件対応に注力。事業ポートフォリオの見直し、リソースのシフトを実施。
- 金融 … メガバンクの大型案件が一段落した影響が大きく、前年対比でマイナスに。
- 公共サービス … 旅行業および人材サービス向けの案件増加により、前年対比で増加。
- 流通・その他 … 子会社「ネクサス」を連結した影響により、前年対比で増加。

		17/03期	18/03期	19/03期	前年同期比	
2 Q 累 計	ソフトウェア 売上高	金融	6,112	6,083	5,224	85.9%
		公共サービス	3,075	3,521	4,211	119.6%
		流通・その他	2,927	3,982	4,501	113.1%
		12,115	13,586	13,937	102.6%	
	セグメント利益	1,328 (11.0%)	1,648 (12.1%)	1,419 (10.2%)	86.1%	

【注】 () 内の数字は利益率を表します。



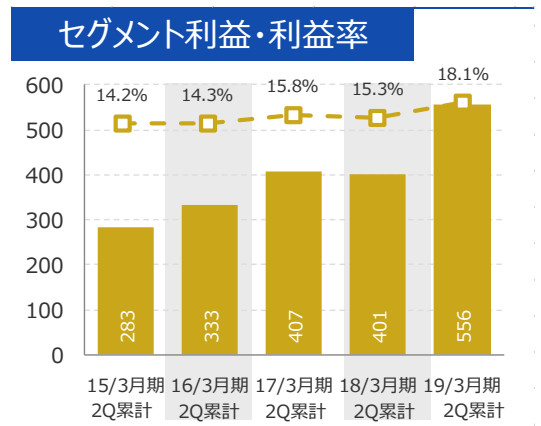
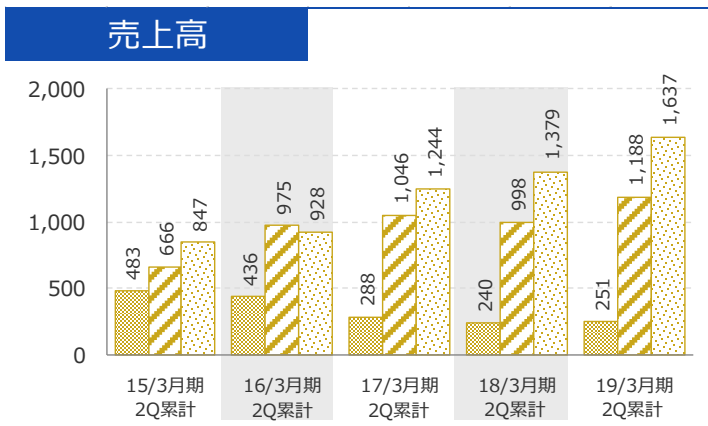
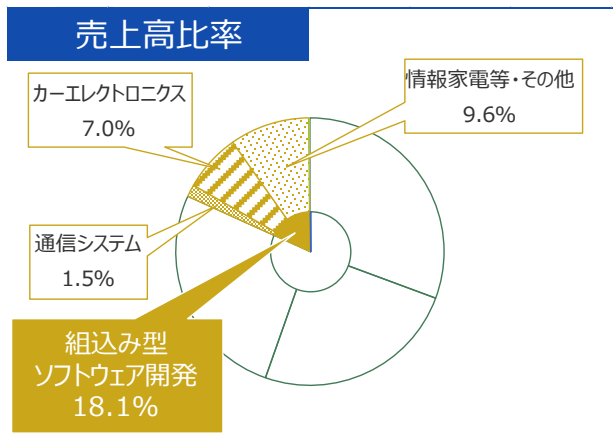
[単位：百万円未満切捨]

■ 組込み型ソフトウェア開発

- ・ 受注単価の見直しや生産性改善の取組み、開発体制の強化が奏功。
- ・ 通信システム … スマートフォン関連のプロジェクトが増。現体制を維持。
- ・ カーエレクトロニクス … 主力のインフォテイメント系、表示系が好調。
- ・ 情報家電等・その他 … テレビ、カメラ、AIスピーカー等のデジタル情報家電のほか、子会社「シーフリー」の制御系開発（鉄道、電気関連）が好調。

		17/03期	18/03期	19/03期	前年同期比	
2 Q 累 計	組 込 み 型 売 上 高	通信システム	288	240	251	104.4%
		カーエレクトロニクス	1,046	998	1,188	119.0%
		情報家電等・その他	1,244	1,379	1,637	118.7%
			2,578	2,619	3,077	117.5%
		セグメント利益	407 (15.8%)	401 (15.3%)	556 (18.1%)	138.7%

【注】（ ）内の数字は利益率を表します。





② 今期の見通し



2.1. 業績予想 連結

[単位：百万円未満切捨]

- 業種・業態で濃淡があるものの、顧客のIT投資意欲は、旺盛。
- 案件の小型化、開発人員の不足が、懸念事項ではあるものの、下期は、主力の人材、旅行、物流、カーエレクトロニクス、情報家電を中心に成長を見込む。
- 2018年5月8日に発表した、業績予想に変更なし。

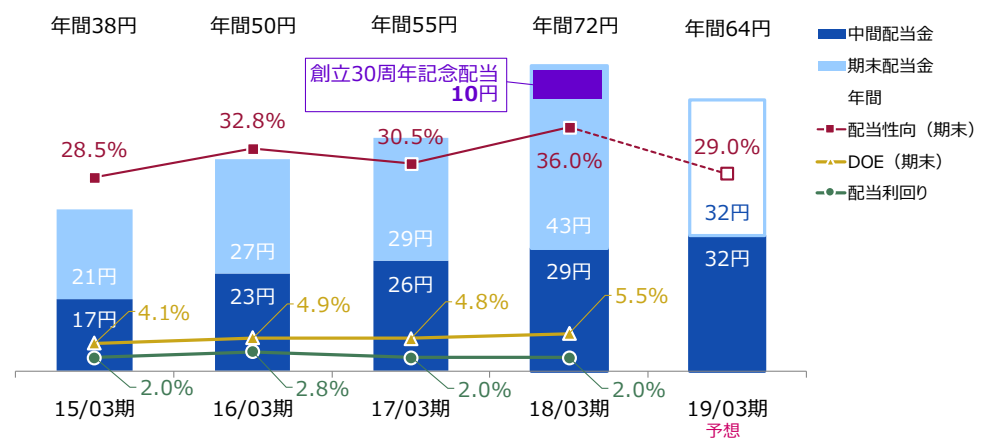
通 期	18/03期				19/03期	
	17/5/9 予想	前年 同期比	実績	前年 同期比	18/5/8 予想	前年 同期比
	売上高	33,200	107.5%	33,328	107.9%	35,500
売上総利益			6,308 (18.9%)	109.8%		
営業利益	3,000 (9.0%)	110.8%	3,091 (9.3%)	114.2%	3,280 (9.2%)	106.1%
経常利益	3,280 (9.9%)	106.6%	3,492 (10.5%)	113.4%	3,580 (10.1%)	102.5%
純利益	2,230 (6.7%)	109.2%	2,202 (6.6%)	107.8%	2,416 (6.8%)	109.7%
EPS 円/株	207.63		200.25		220.84	

【注】 () 内の数字は各々の利益率を表します。
 【注】「純利益」は「親会社に帰属する当期純利益」です。

[配当金総額：百万円未満切捨]

■ 2018年5月8日に発表した、配当予想 64円（中間32円、期末32円）から変更なし

	17/03期	18/03期	19/03期		
	実績	実績	実績	18/5/8 予想	増減
中間	26円	29円	32円	32円	3円
期末	29円	※ 43円	-	32円	-11円
年間	55円	72円	-	64円	-8円
配当性向	30.5%	36.0%	-	29.0%	-7.0%
配当利回り	2.0%	2.0%	-	-	-
DOE	4.8%	5.5%	-	-	-
配当金の総額	623百万円	781百万円	-	-	-



※2018年3月期の期末配当は、創業30周年記念配当含む

株主還元方針

- ▶ 当社は株主のみなさまに対する利益還元を経営の重要課題と位置づけており、株主資本の充実と長期的な安定収益力を維持するとともに、業績に裏付けられた適正な利益配分を維持することを基本方針としております。特段の株主優待は行っておりません。
- ▶ 配当に関しましては、**当社(単体)**の経常利益を基に、特別損益を零とした場合に算出される当期純利益の40%相当を目途に継続的に実現することを目指してまいります。



【ご参考】

A decorative border at the bottom of the page, consisting of a repeating blue geometric pattern on a white background, identical to the pattern at the top.

■情報サービス産業

- 企業の競争力と成長力を強化するための「第4次産業革命」「働き方改革」「労働力不足」に対する取組みが、生産性改善に寄与するソフトウェア開発、システム開発の更なる需要を喚起。

■クレスコGroup

- コア技術(アプリケーション開発技術、ITインフラ構築技術、組込み技術)に先端技術(AI、IoT、ロボティクス等)を加えたクレスコグループの幅広い事業領域が優位性を発揮。
- 不採算案件の収束に向けた対応。
- 市場の変化に即した顧客ポートフォリオおよび事業体制の見直しを図るとともに、先端技術を取込んだ新規事業・サービスの開発に注力
- グループ連携の強化や品質管理の再徹底を通じて、リソースに応じた適正な受注量の確保と顧客満足度の更なる向上に努めた。
- エバンジェリスト活動の一環として、技術研究の成果発表や各種サービス・ソリューションのプロモーション活動を引続き、推進。
- 良好な経営環境が継続している反面、エンジニア不足は、受託開発事業において、業績拡大のボトルネック。
- 全社的な生産性改善活動(自社向けのイノベーション活動)をはじめ、受注単価の引上げや選別受注を積極的に実施し、業績の巻返しに取り組む。

平成30年7月4日



各位



会社名 株式会社 クレスコ
 代表者名 代表取締役 社長執行役員 根元 浩幸
 (コード番号：4674 東証第1部)
 問合せ先 広報IR推進室 室長 米崎 道明
 (TEL 03-5769-8058)

RPA プラットフォーム「UiPath」の認定リセラー・パートナー契約を締結 ～ 国内企業向けのUiPath販売を本格開始 ～

株式会社クレスコ（本社：東京都港区、代表取締役 社長執行役員：根元 浩幸、以下、当社）は、RPA プラットフォーム「UiPath」を提供する米UiPath（日本法人：UiPath株式会社、以下：UiPath社）と認定リセラー・パートナー契約を締結し、平成30年7月から国内企業向けに販売を本格的に開始いたしました。

昨今、政府は働き方改革というキーワードを掲げており、一億総活躍社会実現に向け、多様な働き方を可能とするとともに、中間層の厚みを増しつつ、格差の固定化を回避し、成長と分配の好循環を実現するため、働く人の立場・視点で取り組んでいくことが求められています。

その中で、人間の労働を補完・効率化し、業務自動化を実現するRPA（ロボティック・プロセス・オートメーション）やAIへの注目度が高まっています。

当社では、RPAやAIなどの先端テクノロジーへいち早く取り組み、これを活用し業務自動化・効率化を図ることでお客様の経営課題・業務課題の解決を支援してまいりました。

今後もUiPathの導入支援等を推進し、企業の生産性向上へのご支援をしてまいります。

【全文】 https://www.cresco.co.jp/redirect/news/180704_service.html

平成30年7月17日

各 位



会社名 株式会社 クレスコ
代表者名 代表取締役 社長執行役員 根元 浩幸
(コード番号：4674 東証第1部)
問合せ先 広報IR推進室 室長 米崎 道明
(TEL 03-5769-8058)



角膜形状解析画像の機械学習を用いた分類に関する学会発表のお知らせ ～北里大学、宮田眼科病院との共同研究の成果について発表します～

株式会社クレスコ（本社：東京都港区、代表取締役 社長執行役員：根元 浩幸、以下、当社）の技術研究所と、北里大学医療衛生学部視覚機能療法学専攻（学校法人北里研究所、所在地：東京都港区、理事長：小林 弘祐）、宮田眼科病院（所在地：宮崎県都城市、院長：宮田 和典）は角膜形状解析画像の機械学習を用いた分類に関する共同研究を実施し、平成30年7月24日の電子情報通信学会において、研究成果の論文を発表いたします。

円錐角膜という疾患は、角膜の中央付近が薄くなり、円錐状に前方へ突出して、近視や乱視などの視力低下をもたらすため、進行して重症化した場合は、角膜移植を行う必要があります。原因は詳しくわかっておらず、進行度を予測することも難しい疾患です。

当社と北里大学、宮田眼科病院では、この疾患の初期段階の診断に使用する前眼部光干渉断層計による形状解析画像に対して、機械学習による分類を試みる共同研究を実施してまいりました。

この研究成果を応用することで、疾患の進行度を適切に判断し、治療や進行の予防において有益な早期診断に貢献できるものと考えております。

平成30年9月25日

各位

会社名 株式会社クレスコ
 代表者名 代表取締役 社長執行役員 根元 浩幸
 (コード番号：4674東証一部)
 問合せ先 取締役 常務執行役員 杉山 和男
 財務経理本部長
 (TEL 03-5769-8011)



行使価額修正選択権付第5回及び第6回新株予約権（行使許可条項付）の 取得及び消却に関するお知らせ

当社は、平成30年9月25日開催の取締役会において、平成29年12月28日に発行いたしました株式会社クレスコ第5回及び第6回新株予約権（以下、各々を「第5回新株予約権」及び「第6回新株予約権」といい、個別に又は総称して「本新株予約権」といいます。）につきまして、下記の通り、平成30年10月10日付で本新株予約権の全部を取得し、取得後直ちに本新株予約権の全部を消却することを決議いたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 取得及び消却する本新株予約権の内容

(1) 第5回新株予約権の内容

(1) 取得及び消却する新株予約権の名称	株式会社クレスコ第5回新株予約権
(2) 取得及び消却する新株予約権の数(株)	9,000個(株)

[【全文】 https://www.cresco.co.jp/redirect/news/180925_ir.html](https://www.cresco.co.jp/redirect/news/180925_ir.html)

平成30年9月25日

各 位



会社名 株式会社クレスコ
代表者名 代表取締役 社長執行役員 根元 浩幸
(コード番号：4674 東証一部)

問合せ先 執行役員
グループ事業推進本部長 高石 哲
(TEL 03-5769-8011)

アルス株式会社の株式取得（子会社化）に関するお知らせ

当社は、平成30年9月25日の取締役会において、アルス株式会社の全発行済株式を取得し、子会社化することを決定いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

1. 株式取得の理由

当社企業グループは、複合IT企業として、株式会社クレスコを親会社とし、現在、子会社10社、持分法適用会社3社の体制となっております。各社の有機的な連携により、企業のIT戦略立案から開発、運用・保守まで、幅広いニーズにお応えしております。

アルス株式会社は、人事・給与・ワークフロー関連のパッケージソフトウェアの設計・開発を得意とする会社であり、日本アイ・ビー・エムの認定コアパートナーとして、同社と連携しながら活動を進めております。

今回の株式取得は、今後、更に需要が見込まれるパッケージソフトウェア開発事業を取り込むことにより、当社企業グループにおける企業価値の更なる向上に資するものと考えております。

【全文】 https://www.cresco.co.jp/redirect/news/180925_corp.html

■ 情報サービス産業の動向

- 企業の循環的な業績改善や「攻めのIT経営」を背景としたIT投資の活発化に加え、デジタル技術を活用したビジネスモデルの革新を推進する「デジタル変革」の潮流に乗り、システム開発の需要が確実に見込まれる。
- 日本情報システム・ユーザー協会が実施の「企業IT動向調査2018」では、40.7%の企業が2018年度の予算を昨年度に引続き「増やす」と回答。
- 足許の営業状況からもお客様の投資意欲を窺うことができ、需要の更なる押上げが実感できる。
- ITサービスのコモディティ化と低価格化が進む中、クラウドを活用したシステムを中心に市場は拡大し、IoT(Internet of Things)、AI(人工知能)/機械学習、運用自動化(Robotic Process Automation)といった先端技術のトレンドと相まって、投資意欲は一層拡大する。

- 需要の拡大に伴い、人材の不足感は依然否めず、継続的な人材の獲得・育成、生産性向上、開発体制の強化は、優先課題。
- 人材、旅行、物流、カーエレクトロニクス、情報家電の各分野は、「デジタル変革」の到来により、お客様層の裾野が更に拡大する局面にあり、当面の成長を見込む。
- 基幹系のシステム更改、新規サービス対応システム、新商品の組込みシステム、人材不足に起因する生産性向上を目的とするシステム（AI、RPA）、ハードウェア、運用のコスト削減を目的とするクラウドへの移行などは、有望なビジネスになると見込む。
- クレスコグループがご提供するサービスは幅広い技術領域を有しており、世の中のトレンドを概ね取込めるポジションにあり、あらゆる企業、団体、産業から「デジタル変革」のパートナーとして期待されている。
- 「デジタル変革」をリードし、顧客がビジネスモデルの革新を通じて自らの成長を実感できる現実的な提案をスピーディに行うため、事業の柱であるソフトウェア開発事業、組込型ソフトウェア開発事業において、技術および品質の面から更なる強化を図る。
- 先端技術を積極的に取込み、顧客の成長に寄与するサービスおよびソリューションを充実させていく。
- クレスコグループ各社が長年培ってきた営業力と経験を活かし、顧客の環境変化をいち早くとらえ、顧客のビジネスチャンスを支援する新規性と利便性を備えたサービスを開発するとともに、グループ内協業や他社とのアライアンスを含めた事業を展開していく。

- 「CRESCO Ambition 2020」、に沿った経営
- ビジネス品質と生産性の向上による確実な成長
- M&Aによるグループビジネス規模の拡大

2016年4月始動の5ヶ年ビジョン

CRESCO Ambition 2020

Lead the Digital Transformation
～『クレスコグループ』はデジタル変革をリードします。～

挑戦する企業集団

洗練された技術力と確かな品質

ひとりひとりが輝く **クレスコ**

1. 鉄板品質の提供
2. 生産性の追求
3. リソース戦略の強化
4. 人材の採用と育成
5. 新技術の研究・開発
6. グループ連携の強化
7. 営業体制およびお客様とのリレーションシップの強化
8. 新規ビジネスの組成
9. コーポレートガバナンスの推進
10. 健康管理と働き方改革の推進
11. ダイバーシティへの取組み

	2015年3月期				2016年3月期				2017年3月期				2018年3月期				2019年3月期			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
クレスコ・イー・ソリューション 【※4】	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		
クレスコワイヤレス 【※1】	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		
クレスコ・アイディー 【※1】	●	●	●	●	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
アイオス 【※7】【※11】	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		
クレスコ九州	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		
クレスコ北陸	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		
科礼斯軟件（上海） 【※6】	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	/	/	/	/	/	/
シーズリー	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		
クリエイティブジャパン	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		
エス・アイ・サービス 【※2】【※4】	/	/	/	/	●	●	●	●	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
メクゼス 【※3】【※9】【※10】	/	/	/	/	/	/	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		
エヌシステム 【※5】	/	/	/	/	/	/	/	/	/	●	●	●	●	●	●	●	●	●		
ネクサス 【※8】	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	●	●	●		
子会社総数	9	9	9	9	9	9	10	10	9	10	10	10	10	10	9	10	10	10		

【※1】 2015年4月1日付で「ワイヤレステクノロジー」は「クレスコ・アイディー」を統合し、「クレスコワイヤレス」に社名を変更

【※2】 2015年4月1日付で「(株)エス・アイ・サービス」を子会社化

【※3】 2015年10月1日付で「メディア・マジック(株)」を子会社化

【※4】 2016年4月1日付で「クレスコ・イー・ソリューション」が「エス・アイ・サービス」を統合

【※5】 2016年9月1日付で「(株)エヌシステム」を子会社化

【※6】 2017年9月25日付で「科礼斯軟件(上海)」は清算終了

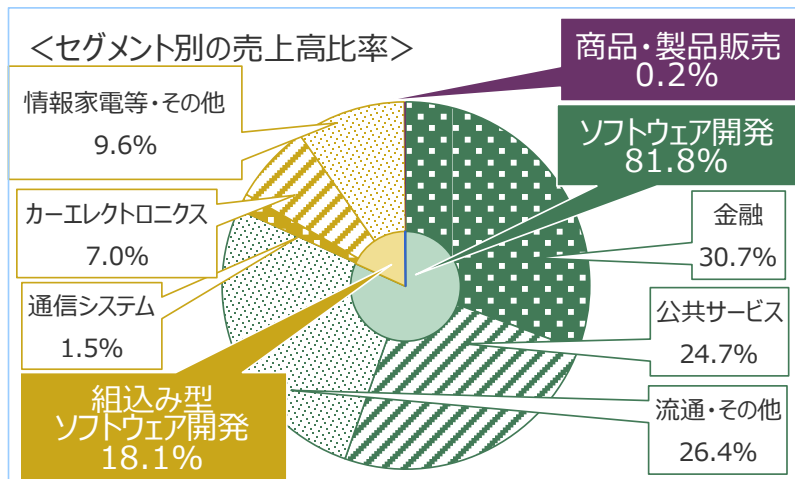
【※7】 2017年10月2日付で「アイオス」は「(株)アプリケーションズ」を子会社化（当社の孫会社）

【※8】 2018年1月12日付で「(株)ネクサス」を子会社化

【※9】 2018年3月12日付で「メディア・マジック」は「メクゼス」に商号変更

【※10】 2018年4月1日付で「メクゼス」は「アイオス 関西営業所」を統合

【※11】 2018年4月1日付で「アイオス」は「アプリケーションズ」を統合



セグメント	事業	分野
ソフトウェア開発	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスアプリケーション開発 ・IT基盤システム構築 ・オリジナル製品・サービス 	<ul style="list-style-type: none"> ・金融 (銀行、保険 etc.) ・公共サービス (旅行、人材、物流、航空、鉄道、電力、放送、医療 etc.) ・流通・その他 (小売、不動産、情報通信、製造 etc.)
組込型ソフトウェア開発	<ul style="list-style-type: none"> ・組込型ソフトウェア開発 	<ul style="list-style-type: none"> ・通信システム (携帯情報端末 etc.) ・カーエレクトロニクス (デジタルメーター、センターディスプレイ etc.) ・情報家電等・その他 (デジタル家電、医療機器、制御システム etc.)
商品・製品販売	<ul style="list-style-type: none"> ・子会社「クレスコワイヤレス」の商品・製品販売 	

- ❖ 掲載内容については細心の注意を払っておりますが、掲載された情報の誤り等によって生じた損害等に関し、当社は一切責任を負うものではありません。
- ❖ また、本資料は投資判断のご参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する決定は、利用者ご自身のご判断において行われるようお願い申し上げます。
- ❖ なお、本資料における将来予測に関する情報および業績見通し等の予想数値や将来展望は、現時点で入手可能かつ合理的な情報による判断および仮定に基づき記述しております。
- ❖ 今後、リスクや不確定要素の変動および経済情勢等の変化により、予告なしで情報を変更したり、実際の業況や業績結果と大きく乖離するなど、本資料の内容とが異なる可能性もございます。予めご了承ください。

【 IRのお問合せ】 広報IR推進室
Mail : ir@cresco.co.jp
TEL : 03-5769-8058